



<CAM フィリピン・リサーチ・レポート>

2019年7月10日

フィリピンのインフレ率(CPI)、

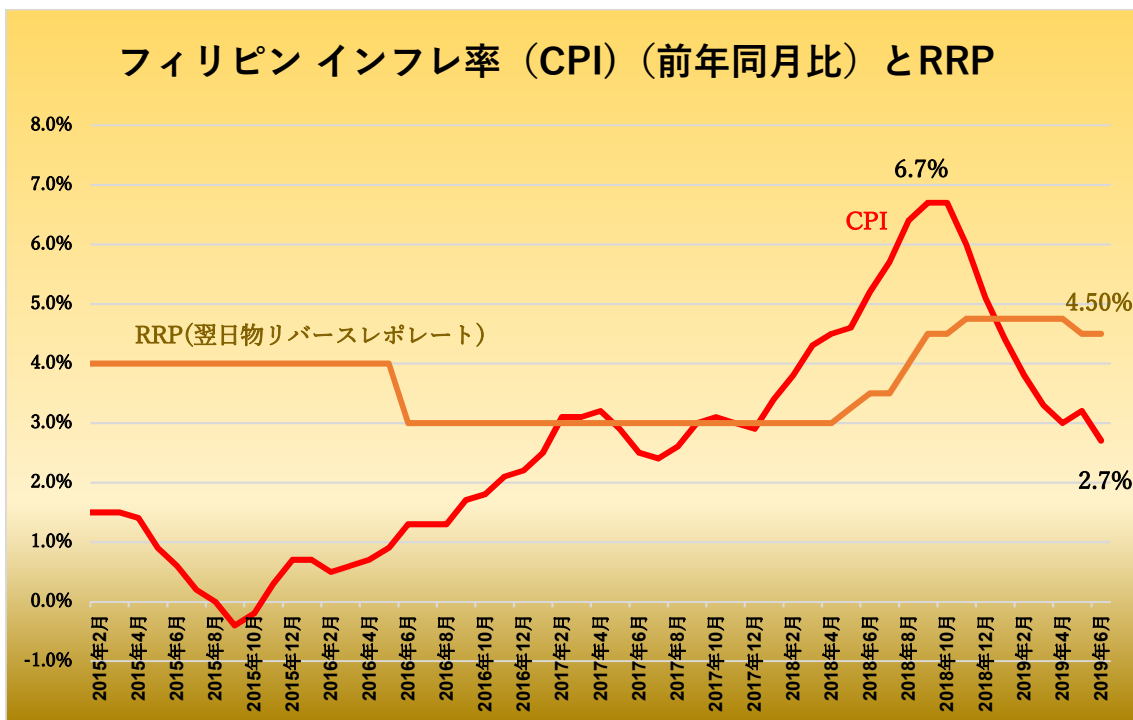
2017年以來の2%台で金利低下期待

フィリピン統計庁発表の同国6月のCPIは対前年比+2.7%と2017年12月以來の2%台へと下落した。同国CPIは2017年12月以後上昇し、2018年9月には同+6.7%までとなった。

フィリピン中央銀行(BSP)は2018年5月から11月までに5会合(5月、6月、8月、9月、11月)連続、RRP(翌日物リバースレポ金利)を合計175bpt引き上げた。その結果CPIの上昇は一服し、2018年11月以降は下落基調が続いている。

本年5月にBSPは利下げに転じ、RRPを25bpt引き下げ、年4.5%としている。

BSPは今下期以降も利下げ政策を継続する(50~100bptか?)と推測される。BSPが利下げに転じたことは、ドゥテルテ政権のインフラ整備に対する積極支出策と相まって、同国の株式市場の浮揚効果をもたらすと期待されている。



出所：フィリピン統計庁、BSPのデータをもとにキャピタル アセットマネジメントで作成

以上